

1. 第 50 回日本医学教育学会大会

岡田 英理子, 田中 雄二郎 (東京医科歯科大学)

第 50 回日本医学教育学会大会は 2018 年 8 月 3 日 (金) 4 日 (土), 東京医科歯科大学を会場として開催された。大会長は吉澤靖之, 実行委員長は田中雄二郎が務めた。

参加者数は招待者も含め 1,382 名と過去最大であった。演題数は指定演題 54 題, 一般演題 493 (プレナリー 29, 一般口演 166, ポスター 200, 学生 50, インターナショナルセッション 48) だった。

開催テーマは本学の理念にも因み, 医学教育の普遍的テーマにも通じる「知と癒しの匠を創造する」を掲げた。大会校企画で「Special International Symposium From Zero ~新しいカリキュラム作成」と題して, 新しい Society 5.0 時代に向けての教育カリキュラム作成について, 赤津晴子先生 (国際福祉医療大学), Robert K. Kamei 先生 (Duke-NUS Medical School), Thomas H. Aretz 先生 (Partners HealthCare International, Harvard Medical School), Prasit Watanapa 先生 (Siriraj Hospital) を迎えシンポジウム形式で開催した。さらに, 招請講演として Robert Kamei 先生から TBL を主体としたカリキュラムについて, また, 医学教育モデル・コア・カリキュラム誕生秘話を佐藤達夫先生 (東京医科歯科大学名誉

教授) からご講演いただいた。また, 臨床疫学が与える臨床医学での研究成果について, 京都大学福原俊一先生, 基礎研究医養成のための医学教育について東京大学水島昇先生より基調講演をいただいた。いずれも今後のカリキュラム改革の参考となるものであった。

各学会委員会からは, シンポジウム 7, パネルディスカッション 3, ワークショップ 4 そして研修医対象のワークショップの計 15 セッションが開催され, 病院勤務の参加者に考慮し大会 1 日目金曜日に卒前教育, 2 日目土曜日に卒後教育のセッションを配置し, 大変盛況であった。

一般口演では 195 題から 29 演題をプレナリーセッションとして選出した。プレナリーでは十分な討議時間を設け, 医学教育のトレンドを知ることができる企画となった。学生セッションでは, 研修医・学生の参加費を減額したこともあり, 全国 32 大学から 235 名の学生・研修医・模擬患者が参加し 50 演題が寄せられ, 教員も交えて活発な討議が行われた。さらに, プログラムアプリの導入といった新しい試みや, ランチョンセミナーでは本学臨床栄養部監修のオリジナリティ溢れる医科歯科弁当が提供され, 大変好評をいただいた。

2. 第 51 回日本医学教育学会大会

山脇 正永 (前・京都府立医科大学教育センター, 現・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

2019 年 7 月 26 日 (金), 27 日 (土) の 2 日間, 京都府立医科大学 竹中洋学長を大会長として, 京都府立京都学・歴彩館, 及び京都府立

医科大学稲盛記念会館にて, 第 51 回日本医学教育学会大会が開催され, 1,251 名の参加をいただいた。大会長講演では, 医学教育のこれ